



■はじめに

夏野菜の最盛期も終盤を迎え、そろそろ秋冬野菜の準備が始まる時期です。IPM(総合的病害虫・雑草管理)の実践により、環境への負荷や作業者の健康リスクを軽減し、持続可能な農業生産を行いましょう。

■トピックス

大阪・関西万博における「持続可能性に配慮した調達コード(第2版)」が公表されました。

このうち、「持続可能性に配慮した農産物の調達基準」では、GAP認証農産物が調達基準の要件への適合度が高い農産物として位置づけられています。

<要件>

農産物の生産にあたり、以下の点について、生産される国や地域における関係法令等に照らして適正な措置が講じられていること

- ① 食材の安全を確保
- ② 周辺環境や生態系と調和のとれた農業生産活動を確保
- ③ 作業者の労働安全を確保
- ④ 作業者の人権保護を確保

<要件への適合度が高い農産物>

1. GLOBALG.A.P.、ASIAGAP、JGAP 認証を受けて生産された農産物
博覧会協会が認める認証スキームによる認証を受けて生産された農産物
2. 1の農産物以外を必要とする場合は、「国際水準 GAP ガイドライン」に準拠した GAP に基づき生産され、都道府県等公的機関による第三者の確認を受けている農産物
3. 1、2の農産物以外を必要とする場合は、環境負荷の低減に取り組むことについて公的機関等による第三者の確認を受けて生産された農産物

■GAPでの重要な視点(「GAP をする」と、「GAP 認証をとる」ことの違い)

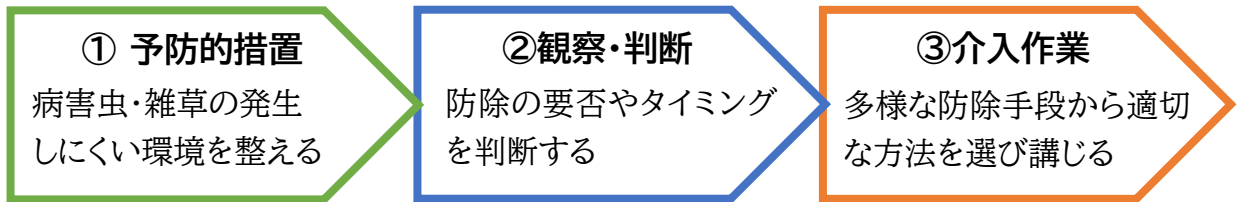
GAP をする	行為	農業者が GAP(活動または取組)を自ら実施すること
GAP 認証をとる	証明	GAP の取組を第三者が審査し、証明すること

- まずは、農場に潜むリスクを洗い出し、改善に向けて自ら考え実践してみましよう。

- つぎに、これまで GAP に取り組んできた農場、産地については、第三者の認証を得て「取組が見える化」するなど、GAP の取組をステップアップしていきましょう。
※ 第三者の視点で農場を客観的に見ることで、新たな視点での気づき、リスクの発見が期待できます。

●IPM(総合的病害虫・雑草管理)の実践とは？

経済性を考慮しつつ病害虫・雑草の発生増加を抑えるため、適切な防除手段を総合的に講じるものです。



<事例紹介>

発生状況の観察

病害虫発生予察情報の確認

入口、ハウスサイドに防虫ネットの設置

リスクの低い農薬への転換

天敵、微生物農薬等の活用

ローテーション散布

ほ場の除草(雑草管理)

作物残渣の除去

土壌の排水性改善

抵抗性品種(接木苗)の利用

【水稲】
斑点米カメムシ類
7月中旬に実施した水稲一斉調査では、畦畔のすくい取り調査で本虫の発生が平年に比べて多く見られました。岐阜西濃地域および中濃地域の一部ほ場ではイネカメムシの発生が多く確認されています。水稲の出穂直前および出穂後の畦畔除草は本虫を水田内に追い込む恐れがあるため、出穂10日前までに実施するとともに、水田内のイネ科植物(田間雑草)を除去していただく。

病害虫発生予察情報 (美濃地域) 8月予報
令和5年度 病害虫発生予察情報 (美濃地域) 8月予報 (1/2) 令和5年7月31日

■「ぎふ清流GAP評価制度」に関する情報

Webサイト 検索 [ぎふ清流GAP \(岐阜県公式ホームページ\)](#)
 制度の概要(要領・要綱の閲覧)、申請様式等のダウンロード、認証農場の紹介

■「ぎふ清流GAP通信」に関するお問い合わせ

(一社)岐阜県農畜産公社 ぎふ清流GAP推進センター
 電話:058-216-1566 FAX:058-216-1567 Eメール:gifu-gap@gifu-notiku.com

